

久留米市合川町付近は、奈良時代から平安時代にかけて筑後の国を統括した役所、「筑後国府」が置かれ、政治・経済・文化の中心地として栄えました。

今回の「第2回筑後国府展」は、発掘調査の成果を活用するために平成18年度から行っている埋蔵文化財保存活用整備事業の成果を中心にご紹介いたします。筑後国府展を通じて、久留米の歴史により一層の興味を深めて頂ければと思います。

筑後国府ってなに？

現在の都道府県ができる以前、日本はそれぞれの地域が「〇〇国」と呼ばれていました。福岡県南西部の筑後地方は、筑後国に属していました。

そして、それぞれの国を治めるために「国府」という役所が置かれていたのです。



筑後国府はどこにあったの？

現在の久留米市の合川町・朝妻町・御井町一帯にありました。東西約1.2km、南北約1.0kmほどの範囲に広がっていました。

※イラストはイメージです。



国府では何をしていたの？

国府には、都から派遣された国司をはじめとして、多くの人が働いていました。その主な仕事は・・・

- ①民が作った米や干し魚などの産物を税として集め、都や大宰府に送る。
- ②堤防の建設や灌漑の整備などの公共事業を行う。
- ③国内の治安を維持する。
- ④郡の役人を国府に集めて、儀式や宴会をする。
- ⑤国内の各地を見回る。
- ⑥工房で金属製の工具・建具・日用雑貨・装飾品・武器などを作る。
- ⑦学校で役人や医者を育成する。
- ⑧軍団で兵士の訓練をする。



筑後国府は、飛鳥時代の終わりごろから平安時代の末まであったことがわかっています。



旧石器時代	縄文時代	弥生時代	古代	中世	近世	近・現代					
			古墳時代	飛鳥・奈良	平安時代	鎌倉時代	室町時代	江戸時代	明治	昭和	平成

筑後国府があった時代

今回の展示

筑後国府跡から出土した遺物を再度詳しく検討し、整備や研究に活用するために、平成18年度から埋蔵文化財保存活用整備事業に取り組んでいます。今回は、国府の中の大溝の調査で出土した遺物をご紹介します。国府の工房で使われた鍛冶道具や、漆の入った器、硯などがあり、国府の様子が見てとれます。



鞴(ふいご)の羽口(はぐち)
金属を溶かす炉の送風管の先端



取瓶(とりべ)
溶かした金属を鋳型(いがた)に注ぐための容器



銅滓(どうさい)
鋳造の際に出た銅のかす



漆(うるし)が付着した土器
武器などに塗る漆を混ぜた器



円面硯(えんめんけん)
役人が使っていた円形のすずり



須恵器(すえき)の蓋(ふた)と坏(つき)
窯(かま)で焼いた硬質の器